

文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業
「地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協働による実践的研究 報告書第4号

2012 年度稲爪神社秋祭り 調査報告書



目次

西之組獅子舞保存会	1
大蔵谷獅子舞保存会	13
早口流し	19
子供神輿	23

附録 DVD 「2012 年稲爪神社秋祭り」(収録時間 20 分)

西之組獅子舞保存会

片山裕貴

片岡渚紗

田中愛子

調査概要 10月6日(土)15時～19時：町回り・宮入奉納と、10月7日(日)10時～16時：町回りを、観察とインタビューを用いて、西之組獅子舞保存会について調査した。

1. 西之組の成立

九州大蔵氏出身で、戦国・豊臣期の筑前国の武将である秋月種実という人物が京都へ行く際、大蔵谷に宿泊したといわれる。宿泊したその日は稲爪神社の宵宮であり、秋月種実は大蔵家に伝わる獅子舞神楽を奉納した。これが「大蔵谷の獅子舞」の由来とされている。

その獅子舞神楽が伝承された。現在でも稲爪神社の氏子によって、悪病や災難払い、五穀豊穡などが祈願され、毎年行われている稲爪神社の秋祭りの宵宮で奉納されている。

また、江戸時代には大蔵谷村で疫病が流行していたといわれる。その疫病を祓うために神事が行われたそうだ。その神事もまた伝承された。現在でも稲爪神社の祭りが行われている期間中、氏子崇敬者の各家をお祓いするため、獅子が大蔵谷の地域周辺を廻る。この神事は荒神払いといわれるようになった。

もともと大蔵谷の獅子舞は「西之組」と「中之組」、「東之組」の三つの団体によって行われていた。しかし、戦後しばらくして「東之組」が活動を中止してしまった。その頃は、西之組が「雄」獅子を、中之組が「雌」獅子を演じていた。「雄」獅子と「雌」獅子は同時に宮入奉納を行い、稲爪神社の秋祭りを盛り上げていたといわれている。しかし、その後「西之組」も「中之組」も活動を中止し、大蔵谷の獅子舞は事実上消滅してしまった。

その後しばらくして、「西之組」と「中之組」が新たに『大蔵谷獅子舞保存会』を結成した。しかし、両者の獅子の舞い方において意見の食い違いなどが生じ、分裂してしまった。

現在は、「大蔵谷西之組獅子舞保存会」（西之組）と「大蔵谷獅子舞保存会」（中之組）の二つの団体が稲爪神社の神楽獅子を復活させている。

2. 西之組の獅子舞の特徴

西之組の獅子舞の芸は約30種類あり、非常に荒々しく豪快な獅子舞であるといわれている。また、全ての事象には「静」と「動」が存在するように、西之組の獅子舞も「静」と「動」を兼ね備えた繊細な動きを見せる。このように「静」と「動」を兼ね備えた、野性的で動物（獅子）に近い動きをする獅子舞は、日本全国では少ないといわれている。

だんじりの上で激しく舞ったり、獅子の心情や親子の愛情を表現したり、「二人継ぎ」や「羅漢上がり」という技と連動した「三人継ぎ」という大技など、独自の芸が特徴的である。また、伝統文化の保存と継承だけでなく、芸の復元にも力を入れている。

3. 西之組の笛の特徴

どんな祭り事にも「七」という数が重要な意味をもつといわれている。西之組の笛の音色も芸によって七通りに吹き分けている。

4. 西之組の太鼓と鐘の特徴

太鼓と鐘の叩き方は芸によって三種類ある。「せんまの太鼓」と「獅子が舞う基本的な太鼓」、「最後の締め太鼓」である。

5. 西之組2日間の行程

(1) 10月6日 土曜日：1日目宵宮

	西之組	私たちの行程
15時頃	旧西国街道にて荒神祓い	稲爪神社集合 旧西国街道沿いに東へ散策
15時過ぎ		八幡神社・大塩家見学
	休天神にて休憩・夜の宮入のために 電灯用バッテリー等の準備	
18時～18時50分	西之組宮入奉納	宮入奉納鑑賞
19時～	早口流し	
	保存会宮入奉納	



写真1

1日目のメインは夕方から稲爪神社で行われる宮入奉納である。15時に稲爪神社に集合してから2時間ほど散策して町並みを観察したり、西之組や保存会の荒神祓いを観察した。休天神は西之組の本部として使われており、テントが設営され、そこで準備をしていた。写真1は、暗くなった夕刻の宮入奉納の時に屋根の上についている提灯に明かりを灯すために、だんじりの中にバッテリーを載せ準備している様子だ。

宮入奉納は神社の入口側を正面に演技が行われるため、石段には人が溢れかえっていた。反対側も多くのお客がおり、100人以上はいたのではないかと推測される。

宮入奉納で獅子が登場するまでに「てんぐ(写真2)」と「おたやん(写真3)」、「せんま(写真4)」が「三神の舞」を披露する。この三神は古事記が伝える『岩戸隠れ(天の岩戸)』の伝説に出てくる神々に由来する。「てんぐ」(サルタヒコ)は、瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)の降臨の際に、道案内をした怪異な容顔の神様である。「おたやん」(アメノウズメノ

ミコト) は、天の岩戸の前で裸になって踊り、神々を楽しませた美人の象徴として崇められている神様である。「せんま」(タヂカラヲ) は、神々の中で最も力持ちといわれる神様である。

- せんまの舞：七通りある。「どっこ」という獅子のえさを手に持ち滑稽に踊る。口や身体がゆがんでいるため、上下左右に動く。これは、東西南北天上天地、全ての世界の平穏を祈願した舞を表現している。
- 米搗き：米搗き器を使用して精米をしている様子を表現した舞である。これは五穀豊穰を祈願したものである。



写真 5・6・・・三神の舞

稻爪神社神楽獅子舞 **大蔵谷西之組**

宮入奉納演目紹介

三神の舞…てんぐ（サルタヒコ）・おたやん（アメノウズメノミコト） ・せんま（タヂカラヲ） 日本神話に登場する三神	
1	おおどし せんまに眠りを妨げられて怒った親子の獅子が笹藪から出て来ました。
2	だんじり 獅子はだんじりの上に登り、激しく華麗に舞います。
3	手ぬぐい 道中、落ちている手ぬぐいに気づいた獅子は、それに興味を示し…
4	しらみ 身体についたしらみをとっている様子です。
5	豆ひろい 落ちている豆を食べている様子です。
6	追い獅子 自らの尻尾で、獅子が遊んでいる様子を演じています。
7	腰のり 前足の上に後ろ足を乗せ、自らを大きく見せている芸です。
8	つくばい 獅子がつくばいにたまった水を飲んでいる様子を表現しています。
9	お山 後ろ足の使い手の力と、頭との呼吸が大切な力芸の一つです。
10	眠り 獅子もつい、ウトウトと…。その様子を繊細に表現しています。
11	穴獅子 踊り疲れた獅子が、自分の「巢」へと帰っていく様子を繊細に表現しており、西之組に伝わる由緒ある伝統芸のひとつです。
12	蝶舞い すすき林の中で蝶を捕まえようと戯れています。
13	せんま追い 自分の眠りを妨げたせんまを見つけた獅子は、怒り追い回します。
14	楽遊び 動物が走り回ったり、転がったりして遊ぶように、獅子も遊びます。
15	忍び 獅子が水溜りの水を飲もうとした時、水面に写った自分の顔に大変驚きます。忍び足で、警戒しながら水を飲みに行くという様子を、鮮明に表現した芸です。
16	足芸 一段目と二段目の使い手の足をからませバランスを保ち、その上に子供を乗せるという力芸の一つです。
17	提灯追い 明りの点いた提灯に対して威嚇をし、追い回しています。
18	一人寝 動物が寝転んでじゃれるように、獅子も寝転がって遊んでいます。
19	前足 獅子が、自分の前足を毛繕いしている様子です。
20	後足 前足と同様、今度は後ろ足の毛繕いをしていきます。
21	親子獅子 親子の獅子と一緒に呼吸を合わせて、離れてはくっつき、くっついては離れ、親と子の情愛を現しています。
22	三人継ぎ これは一番難しいといわれている力芸で、最後の大一番でもあります。受け継いできたこの乗り方（羅漢上がり）からもうすでに芸は始まっています。
23	早又 締めくくりの芸です。

これは、宮入奉納の際に配布された昨年までは演目の説明役がいたそうだが、今年是人手不足のためにこの説明書きの紙を配ることとなった。

本来は「三人継ぎ」を入れ 23 の芸が行われる予定であったが、途中で子供が怪我をし、やむなく三人継ぎは中止となった。観客からは、残念そうな声や、けがについて、また西之組の人手不足の現状を心配する声が聞こえた。町回りの荒神払い同様、宮入奉納も最後は「早又」で締めくくられた。

写真 7 : お山



写真 8 : 穴獅子



写真 10 : 早又



写真 9 : 三神の舞以外でも、登場するおかめ、てんぐ、センマ。天狗は子供を怖がらせたり、センマは観客が連れていた犬とあそんだりもしていた。

(2) 10月7日 日曜日：2日目本宮

	西之組	私たちの行程
6時	集合・準備	
8時	町周り開始	
10時		稲爪神社に集合
10時50分	アスパia広場・アスパiaのテナント店舗で荒神祓い	アスパia付近で西之組と合流、休憩中にインタビュー
11時	明石駅付近(店、一般家庭)	
10時50分	魚の棚	
12時10分		明石城まつり見学
13時頃	休天神にて休憩	
14時頃	町回り再開(店、一般家庭)	西之組と合流
15時～	グループホーム「大蔵の里」で荒神祓い	調査終了
16時		稲爪神社に集合し、神輿担ぎのために準備
17時		献灯やたい・女衆神輿の神輿担ぎに参加
19時頃		解散



2日目は町回りの調査。1日目の一般家庭での荒神祓いと比べ、アスパia広場や魚の棚、グループホームなど観客が多い場所が多い。また移動範囲も広がるため、公道を走れるようにトラックにだんじりを載せる(写真 11・12)。駐車位置の関係で、トラックと獅子舞との間に距離が開いてしまう場合もあるが、掛け声や警棒の合図でリズムを合わせていた。(写真 13：左側に見える緑のはっぴを着た男性は、獅子舞に合わせて警棒を振っていた)





アスパピア郵便局前で休憩時間をとった後、アスパピア広場で荒神祓いをした(写真 13～15)。通りがかった人が足を止め、獅子舞を見物していた。演技が終わったあと、拍手が沸き起こっていた。その後アスパピア内のテナント店舗店でお祓いをし、アスパピア周辺へと場所を移す。



以前はトラックに載せただんじりの太鼓を使う班、持ち運び用の小太鼓を使う班(写真16)と二手に分かれて行っていたが、今年は人数不足のために二班に分かれることはほとんどなかった。



魚の棚は多くの観光客で賑わっていた。車はアーケード内に入ることができないため、入口に駐車した(写真17)。お店の商品や通行人など、ごく近い距離だった(写真18・19)。





写真 19

私たち自身が 16 時から神輿担ぎに参加するという時間の都合上、15 時頃に訪れたグループホーム大蔵の里での荒神祓い(写真 20・21)が最後の観察となった。駐車場に椅子を置き、そこにお年寄り約 10 人が座り、手を叩いたり微笑んだりしながら見物していた(写真 22)。獅子舞が娯楽としてもお年寄りたちに好まれていて、西之組の訪問が喜ばれていることがわかった。



写真 20



写真 21



写真 22

6. 西之組と地域の人にインタビュー

10月6日10時50分頃、アスパア付近で休憩中の西之組の方々に取材を行い、いくつかの質問をさせていただきました。

・西之組の獅子方の年齢について

→現在、7歳から40歳の幅広い世代が獅子舞を使っている。

・笛を吹いている女性について

→笛に限らず、やりたい人たちが集まって行っている。

・黄緑や白の法被の人たちについて

→緑の法被に関してはきまりがないが、白い法被は、獅子方や笛の人の親や引退者がつけている。

・町周りの際、記入している、名簿について(写真24)

→名簿には、名前、住所、お花代を記入し、きちんと最後にお礼ができるようにしている。

・一日目のてんぐや、おたやんについて

→獅子方の引退者や親世代がしている。

・西之組のホームページについて

→7年ほど前から開設するも、あまり更新せず。

・次世代の西之組について

→子供が減っており、去年に比べ半分ほどに減ってしまったため、獅子舞を去年は2つ使っていたところ、1つに減らした。人数不足が懸念され始めている。

・荒神払いの際に配っていたステッカーについて(写真25)

→今年から配布し始めたもので、魔除けなどの意味も込められている。



荒神払いで町周りを行っている際に、荒神払いを受けた民家の 20 代の男性と 50 代の男性の親子にインタビューを行い、いくつかの質問をさせていただいた。



・荒神払いの町周りについて

→毎年、荒神払いを受ける民家は大体決まっており、特に毎年、申し込みなどをしてきてもらっているわけではない。新たに荒神払いに来てほしい民家や商店の人は、西之組、もしくは、保存会にお願いします。

・西之組だけにきてもらっているか

→西之組、保存会ともに時間は異なるが両方に荒神払いに来てもらっている。それは、この民家に限らず、多くの人、そうしてもらっている。

・獅子舞について

→この民家の 20 代の男性の方も、かつては西之組で獅子舞をしていた。

・同日に行われていた、明石城祭について

→明石城祭の方が、大規模であり賑わっているが、昔から行われている、稲爪神社の秋祭りの方が、親しみがある。

7. 考察

一日目の宮入奉納の時には、雨が降る中、稲爪神社の前に多くの人が駆け付けていたのが印象的だった。稲爪神社の秋祭りの中でも宮入奉納は地元の人々の楽しみとなっているのだなと感じた。また、笛を吹く人や太鼓を叩く人がいることで、獅子舞の様々な芸の迫力を強く感じられた。西之組の課題として子どもが減少していることがあげられていたが、これからも地元の人々が一つになって継承し続けてほしいと思った。

私は神戸市西区という秋祭りが盛んに行われている地域の出身で、子供の頃は家の近くの神社の秋祭りに太鼓の乗子として参加していた。そのため、秋祭りは布団太鼓が3台、神輿が1基、獅子舞のグループが1組という地元の当たり前がどこに行っても当たり前だと思っていた。稲爪神社の秋祭りでは、獅子舞のグループが2組もあり、その2組がそれぞれにだんじりをひいて町回りをするというのに驚いたとともに、地元の祭りとの相違点から両方の魅力について考えさせられた。稲爪神社の秋祭りの魅力は、華やかでダイナミックな芸の獅子舞や、伝統芸能の奉納、神幸行列での新たな試みなど数えきれない。一度消滅したものを復活させた方たちは、祭りを続けたいという強い意志を持ち、その目的の達成のために柔軟に動いている。例えば今年は神幸行列に沖縄民謡の舞踊グループが参加するという新しい試みが行われたり、神輿の組合ができたりといったことがあった。そういった、祭りの存続のために、新しいことを取り入れたり、地元住民以外にも開かれている点も大きな魅力ではないだろうか。

この調査をした日は、この稲爪神社の秋祭だけでなく、明石城公園の方でも、明石子午線祭やどんとこい祭などが開催されており、明石城公園の祭の規模も大きく、特設ステージなども設けており、賑わっていたため、稲爪神社の祭の客が減ってしまっているのではないかと思ったが、色々な人にインタビューさせていただき、稲爪神社の秋祭は、長い歴史があり、親やその上の代から、引き継がれている文化であり、かつ獅子舞の保存会や、西之組など、その伝統行事を風化させないように、残していこうという、努力が見られ、今年は、ステッカーを配布するなど、毎年全く同じことをするのではなく、変化させていくという点にも、伝統文化を残そうという、工夫を感じた。

8. 参考ホームページ

西之組獅子舞保存会：<http://ookuradanimura.cocolog-nifty.com/> 取得日：2013/1/8

大蔵谷獅子舞保存会

小林由季
石井萌子
西村綾乃
垂水玲生
星島慎平

はじめに

稲爪神社の秋祭りは毎年、体育の日がある土日月の三連休に行われる。秋祭りで行われる神事はいくつかあり、その中でも土曜日の夜に神社の前で行う大蔵谷の獅子舞は兵庫県の民族無形文化財に指定されている。近所の人からも人気の神事である。

この伝統芸能を古くから継承し続ける団体が大蔵谷獅子舞保存会で、この団体が近所をお祓いして歩く「荒神祓い（町廻りともいう）」に同行し取材した。

スケジュール

一日目

15：00～ 神社周辺を探索（獅子舞を追うなど）

16：30～ 宮入奉納

19：00～20：00 保存会の宮入奉納

二日目

9：00～12：00 頃 町内を廻る獅子舞に同行

13：30 頃～16：00 頃 魚の棚とその町内周辺を廻る

15：00 頃～ 神輿を担ぐ準備

17：00 頃～ 神輿担ぎ

18：00 頃～ 神輿の宮入奉納

19：00 頃 解散



保存会の宮入奉納の様子

荒神祓いの流れ

I 必要な道具

荒神祓いにはだんじりが欠かせない。保存会で使われるだんじりの特徴は、屋根に竹が 4 本ささっていて、中央部には小太鼓、大太鼓がある。太鼓には裏表があり、表と裏では音が違ってくる。小太鼓は、別名「ペケペン」と呼ばれる場合もあり、その理由は、叩いているときの音がペケペンと聞こえるところからきている。

保存会のだんじりは、今年の 9 月に新調したばかりで、屋根の裏には銘が刻み込まれている。

もうひとつ欠かせないのが獅子頭でおよそ 3 kg ある。前髪が長く、耳が動き、口も開閉する造りになっている。

バチは良木を使用している。叩くと摩擦で先が燃え、木の匂いがする。

これらを用い一軒一軒お祓いをしていく。

家の中に入り火の字を書きくことで家の中にある邪気を玄関先にあるとして祓う。

II お祓いの手順

1. インターホンを鳴らし家の人がいるか確認する※
2. 人がいる場合はお祓いをしてよいか聞く
3. よければ家の中へ入り「火」の字に獅子を振って「家内安全火の用心」と叫ぶ（これがお祓いになる）

4. 「どこや！」と言って家から出てくる
これで家の邪気が追い出される

5. いくつか芸を行い、最後に「早又^{はやまた}」という芸をして終了し、次に進む

※人がいない場合は次に向かうか、玄関前でお祓いだけして次の家に進む。喪中や断られた場合はお祓いはしない。



だんじりに乗っている太鼓



だんじりの屋根の裏ある銘

獅子舞の芸の種類

- どこ…はじまりの芸。
太鼓が激しい
- 手ぬぐい（獲物拾い）…手ぬぐいの先をくくったものを食べ物に見立て、それを獅子
が食べる。ときどき手ぬぐい以外のもの（お店の商品等）を食べる場合もある
- 前足…前足を舐めるような仕草をする
- 一人寝…獅子が一人で寝転がる仕草をする
- しらめ…獅子が背中についたしらめ（しらみ）を取る仕草
- 丸…しらめと同じように、後ろの足の人
が獅子の前で丸くなって背中を噛む仕草をする
- 早又…「はやまたー！」と叫ぶと、太鼓のリズムは早くなる
最後の芸でもある
- お山の道中…獅子頭を持つ人が、後ろ足
の人の肩に立つ。上の人は獅子頭を動かし、
下の人は歩き回る
- 足芸…仰向けに寝た人の足に足を絡めて
乗り、その上に子供が立つ芸
- 三人継…乗り方が1番激しいげいであり、
目玉の芸でもある



大技である三人担ぎをしている様子



お祓いをしている様子



獅子舞を持つ子供



獅子舞以外の神事

◇ 天狗（猿田彦）

天狗のお面の人が矛を持って、お祓いをして歩く。

◇ 牛乗り

子どもが牛に乗って回る

◇ 御輿

お祭りの一番最後に行く。神様が中に入っていて、神社に帰る。



おかめが子供の頭を撫でている様子
頭を撫でられると頭が賢くなると言われている。



猿のお面を被った子供



天狗（猿田彦）

考察

この秋祭りに参加して思ったことは参加していた町の人たちの年齢層が幅広く、コミュニケーションを図る場として最適であった。自分たちが住んでいる町が稲爪神社、稲爪神社の周辺のことを知ることができ、いい経験ができた。

感想

稲爪神社秋祭りは2回目の参加だったが、保存会の一点のみに注目して回ったので、1回目とはまた違う雰囲気を感じることができました。獅子舞の俊敏さと一体感、豪快な表現・舞いに驚きと感動を覚えました。また地域の方とインタビュー時や休憩時に話したりして、交流も図れたので非常にいい経験ができ、祭りのことも学ぶことができました。また参加してみたいと思いました。

小林由季

今回稲爪神社秋祭りに参加して感じた事は、獅子舞のアグレッシブで、豪快の動きに胸が打たれ、感動しました。また獅子とその周りで笛を吹いている人達との一体感はすごく、このお祭りで様々なことを学ぶことが出来ました。

垂水玲生

神輿を担ぐなど滅多にない経験を得たことや、1日目の夜の宮入行事などは印象深く残っている。特に保存会の獅子舞は、行う芸の一つ一つが勇壮で、無形文化財であることが納得できる程で、その様は圧巻の一言だった。祭への参加は非常に有意義なことだったと感じている。

星島慎平

明石にもあんなに盛り上がって有名なお祭があるのは初めて知りました。参加する前はそんなに有名なものだとは思っていなかったなので実際参加してみてすごい危険な芸や最後にお神輿を神社に入れる時とかみんな一体になってお祭を盛り上げていてすごいなと思いました。これからもこの伝統あるお祭を続けて行ってほしいです。

西村綾乃

私の地元にはこのような町全体で行う祭りがないのでこの秋祭りはとても新鮮でした。大蔵谷の獅子舞は兵庫県の無形文化財に指定されていると言うことで保存会の方たちがとても誇りを持っていることがよく分かりました。町廻りの際は一軒一軒丁寧にお祓いをしており、その中にも楽しみながら全員が一体となっていることが垣間見えました。中には今年から町廻りに参加されている方もいましたが、そのことを感じさせないくらい皆さんの仲が良さそうでした。そして実際に現地に行き、体験してみなければわからないことが沢山あることに気付きました。今回、この貴重な経験ができ、よかったです。

石井萌子

早口流し

阿部 亮輔
橋本 有貴
小林 周平
福田 圭佑

【スケジュール】

10月6日 18:00 早口流し開始
18:00 うぐいす鳥
18:10 山ずくし
18:20 豊年ずくし
18:25 魚ずくし
18:30 由来
18:40 終了

【はじめに】

私たちは稲爪神社の秋祭りで行われた早口流しについて調べた。早口流しがどのような芸能で明石のまちとどのようなつながりがあるのか興味があったので実際にお祭りに参加し調査した。

【1】早口流しについて

早口流しとは江戸時代の初期頃に生まれてから400年間続いている古典芸能であり現在では稲爪神社の秋祭りで行われている以外ではほとんど行われていない。



【2】早口流しの特徴について

題目を唱える際に扇子で顔を隠しているのが特徴的だが、実際はメガホンやマイクなどの拡声器がなかった時代に声を反響させる工夫が現在も残っているのである。稲爪神社の早口流しは、海や山、お伊勢参りなどの江戸時代の明石の住人達の生活や文化などに深く関わっていたと思われる題目が多い。



(扇子で顔を隠しながら唱えている様子)

【3】早口流しの歌について

元々は、浜の組という漁師たちの寄合が主となって行っていたこともあり海のことについての題目が多い。内容はお伊勢参りの旅に例えたり、竜宮城までの旅に例えたりしている。オチがあるので小噺や落語などのように感じることもできる。



(うぐいす鳥を唱えている様子)

【4】早口流しの歴史について

題目は、江戸時代の歌が現在でも使われているが紙などに記憶されておらず、いわゆる口伝で代々伝えられているので、その代の歌い手によって元の曲からメロディーが変わってしまっていたり、歌詞も徐々に変わってしまっている。また、現在は後継者不足に悩まされている。



(豊年づくしを唱えている様子)

【5】うぐいす鳥歌詞

今年生まれのうぐいす鳥が
お伊勢参りをしようとの話
伊勢に来たりて伊勢は津の国
その津の国で一夜の宿おば借りかねて
浜に下りて松の小枝に巣おぼくんで
十二の卵を生みそろえ親子諸共
羽替ひろげて立つその時は
金の杯 黄金の銚子
飲めや大黒歌えや恵比須、
中で酌する福の神とは



(楽器を弾いている保存会の方たち)

【6】 考察

私たちは早口流しというものはどんなものなのかまったく予想がつかなく、早口で何か言葉を言うものだろうと思っていた。だがそれはまったく違って、江戸時代の人を楽しむために作られていてお伊勢参りなどの明石の人たちの生活や文化を反映し様々な工夫が入った素晴らしい歌だと知った。現代まで月日が流れ徐々に歌は少し変わってきていますが江戸時代から今まで続いていることはすごいことだと思った。今現在は後継者が不足しているそうだが、私はこの早口流しの魅力をもっと多くの方に知ってもらって早口流しがこれからもずっと何代も続いてほしいと思った。

子供神輿

阿部 亮輔
橋本 有貴
小林 周平
福田 圭佑

【スケジュール】

- 10月7日（日） 10時30分 大蔵町の子供神輿について行く
12時00分 子供神輿の休憩中にインタビューする
12時30分 子供神輿についていく
13時20分 大蔵本町の駐車場へ行き集合する
13時40分 子供会がお神輿の所で集合し写真を撮る

【1】 子供神輿について

子供神輿は、1日目の前半、2日目の後半に地域の子供、保護者により町内を移動する神輿である。

【2】 子供神輿の特徴

子供神輿は手作りで作られており、神輿の上部には笹や提灯が飾られている。子供神輿が通過した家から、家の名前の書かれた封筒が神輿上部の笹に結び付けられる。神輿にはタイヤがついており、子供たちの力でも移動できるようになっている。



【3】 子供神輿のルート

子供神輿のルートは毎年決まっており、伝統的なルートである。
今年は、獅子舞とルートが重なったため、一部ルートに変更があった。



2日目には子供神輿が置いてある駐輪場で町の人たちが輪になり稲爪音頭を踊ったあと、記念撮影がおこなわれた。
その後、子供神輿が出発し直線の道をゆっくりと移動。
子供はかけ声と共に力いっぱい進行方向に神輿をひっぱりそれを大人数人が反対方向へ押さえるような形で休憩を挟みながらゆっくり進む。

【4】 考察

実際に子供神輿を見てみて、神輿自体もきれいで思ったより神輿からは歴史を感じなかった。しかし、ルートなどは昔からの伝統的なものであり子供神輿にも、さまざまな歴史があることがわかった。
子供神輿に参加する地域の子供が減っているという話を聞き、これからの子供神輿の伝統の存続が大丈夫かなと心配になった。
このことから文化の存続には、若い人の力が必要不可欠であると改めて感じ、私たちにもなにかができることがないかなと思った。



CENTER FOR AREA RESEARCH AND DEVELOPMENT

CARD

KOBE GAKUIN UNIVERSITY